

社会経済学2 (2013年度後期)

第1回: イントロダクション

担当者: 佐々木 啓明*



*E-mail: sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp; URL: <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~sasaki/>

——はじめに——

「経済成長や景気循環をどのように説明するのか. これは, 経済学の永遠のテーマである. 本講義では, 主流派・非主流派を問わず, さまざま経済成長と景気循環の理論を提供する. 本講義の目的は, 各理論の特徴と差異を理解し, どれだけ現実を説明できるのかを自分なりに考えられるようになることである」

基本的には講義概要(シラバス)どおりに進める.

評価: 期末試験, 経済学部生・法学部生とも100点満点で採点.

→ 期末試験問題は講義中の練習問題に基づく.

講義ノートのパスワード:

——各テーマの概要——

1. 新古典派成長モデル: ソロー・モデル (Solow, 1956). 定常状態への安定的な収束. 完全雇用を仮定. 伸縮的な生産関数を仮定. 技術進歩は外生的.
2. 内生的成長モデル: ローマー・モデル (Romer, 1990). 研究開発と経済成長の関係. 研究開発 (R&D) への投資により, 技術進歩が内生的に生じる.
3. マルクスの経済変動論: 再生産表式. 資本制経済が順調に再生産を行ってゆくためには, 每期どのような条件が満たされなければならないか. 単純再生産 (資本蓄積なし) と拡大再生産 (資本蓄積あり) の比較.

4. ハロッド・モデル: 不均衡累積の過程, 保証成長率, 自然成長率. 保証成長率は資本設備の正常稼働(完全稼働)を保証する成長率. 自然成長率は完全雇用を維持するために必要な成長率. 現実の成長率 \neq 保証成長率 \neq 自然成長率. 不安定性原理(ナイフエッジ).
5. カルドアの景気循環モデル: 非線形マクロ動学, 永続的な景気循環, 不均衡マクロ動学モデル, 非線形の投資関数, ポアンカレ=ベンディクソンの定理によるリミット・サイクル発生の証明.
6. グッドウィン・モデル: 循環的成長, 階級間の対立, 最低賃金政策の導入. 資本家と労働者の対抗関係により, 景気循環が内生的に発生する. 利潤分配率上昇 \rightarrow 投資増大 \rightarrow 雇用増大 \rightarrow 労働者の交渉力増大 \rightarrow 賃金上昇 \rightarrow 利潤分配率低下 \rightarrow 投資減少 \rightarrow 雇用減少 \rightarrow 労働者の交渉力低下 \rightarrow 賃金低下 \rightarrow 利潤分配率上昇...

7. カレツキアン・モデル: 儉約の逆説, 賃金主導型成長, 利潤主導型成長. 有効需要の原理, マークアップによる価格形成のモデル. 貯蓄率の上昇は成長率を低下させる. 実質賃金の増大は成長率を上昇させる.
8. ボーモル・モデル: 2部門モデル, 不均等成長, 経済のサービス化がもたらすもの. 製造業とサービスの2部門モデル. 製造業部門の生産性上昇率はサービス部門のそれより高い. サービス需要は非弾力的. このとき, サービス部門の雇用シェアは上昇し, 経済成長率は低下していく.
9. パシネッティ・モデル: 多部門モデル. 完全雇用を維持することの難しさ. 有効需要の原理が働き, 労働のみが生産要素のモデル. 完全雇用条件が導出され, それを満たすのは現実的に困難であることが示される.